





# 鬼熊毒を仰いで 今朝警官隊に捕る

## 祖先の墓前にて 頗る重態の模様

満天下の耳目を集中せしめた鬼熊事岩淵熊次郎(三)は廿日午前四時頃千葉縣香取郡出沼、久我、檜沼三ヶ村の村境にある祖先の墓前に於て毒を仰ぎ打倒れ苦悶し居たるを警戒中の警官隊が発見取押へたが生命は取めるかどうか目下重態であること(千葉發)

# 鬼熊の毒死を 発見する迄

十萬の警備費と二千人の警官隊、三千人の青年團員及び消防組を以つて更に飛行機の出動を迄見た鬼熊狩りも一先づ千秋樂を告げた鬼熊から

戀敵としてねらはれて居た寅松、忠治の兩名は昨日夫々郷里を捨て、逃げ出した爲め住民は是れから後熊がどんな兇暴を働くかと生き心持もなかつたが本日午前四時頃小数の警官隊と自警團の人々が熊公の祖先の

# 物凄いの形相 着衣は破れて

瀕死の熊公は一先づ捜査本部に擔ぎ込まれたが四十二日間の深山潜伏に髪の毛はチレ生ね、顔はヒゲだらけにてアカに汚れ眼ばかり光つて物凄いの形相をして居た

# 墓前を 通り過ぎやうとした時其處にうごめく人影を認め多く並んだトウバをすかしてうかがつた

處七轉八倒して居る者があつたのでさして竹槍、ピストル、仕込杖等にて槍ぶすまを作りジリ／＼と攻め寄せた、其處には今しも毒を仰ぎ口の邊りを毒血に染めて居た

# 自殺は 親戚の忠告か 毒藥が疑問

多分熊公は親戚の者から到底免るゝ術はないから自首した方がよからうと忠告され殊に敵とねらふ寅松、忠治の

# 兩名も 逃げ去つて 居ない事を聞き知り悲觀した爲め自殺を企てたものであらうが毒藥が何んであるかは疑問とされて居る

# 不思議な 本部への知せ

一舊主人と官兄から一殊に茲に最も不可思議とすべきは自警團の人々が熊公の自殺現場を発見しない以前熊公の舊主人五木田縣會議員と一實兄清次郎から捜査本部に對し熊公は自殺したか知れないとのしらせがあつた、此邊から見ると鬼熊に對して自殺をするゝめた者は五木田氏及び實兄の兩人ではないかと専ら噂されて居る

# 多古町は お祭り以上 熊見物の群集

鬼熊は山中に在つて時々人家を脅やかしただけで俺れは必らず祖先の墓前で死んで見せるゝと豪語して居た由であつて

# 今度は 其通りに遣つてのけた譯であるが鬼熊が掴つたと聞いた附近の住民は始めてホット安心し熊公を見ようとする群衆山の如く多古町はお祭り以上の騒ぎを呈して居る

# 口を鎖じて 藥をのます 醫師手古摺る

熊公の傷は咽喉部のカミソリで斬つたあとが最も大きく致命傷と云はれて居るが毒も可成りに廻つたらしく醫師が

# 解毒劑 を囁ませやうとして熊公は云ふ事を聞かず口を固く鎖じて藥をのまない爲め醫師を手古摺らせて居る



お召物は湯通ししますと、洗たくしても布がちぎむことがなく、生地をよくして

# 簡単な湯通し

さりとした柄の方が好まれます。儀式的の時は蝶形のものに限つたようでしたが最近になつてから此の傾向が棄たれて

# 普通の ネクタイ

ロビンを差して用ゐる方が多くなりました

# 鮫川に 鮭百萬尾を 放流する

縣水産課では既記の如く農林省の方針に基き先年來淡水水魚の養殖を奨励しつつあり石城郡鮫川には今年鮭八十五萬尾を放流することになり山田村地内の中流に柵を設け目下それ／＼準備中

# 鬼熊は絶命 實兄の家にて

鬼熊は捜査本部から實兄清次郎の家へ移され其處で療養を受ける事になつたが傷口からの出血多量にて遂に午前十一時十五分絶命した

# 野球大試合 兩軍のメンバー

警城中學校固定ネット披露の野球大試合は既報の如く来る三日午前十時半磐中グラウンドに於て舉行されるが東京實業野球界の覇者である東京鐵道チームと東北隨一の最強を誇る仙台鐵道チームとの試合は蓋し見ものの中の見ものたるべく兩チームのメンバー左記の如くである

鐵口口田部田武藤田野  
鐵橋阿藤宮佐久高  
東野小堀阿藤宮佐久高  
鐵原坂川地 島濱岡來  
仙菅小菊畑岡小大根  
投捕一二三遊右中左

# 天気 豫報 (日一) 曇り小雨

湯通ししますその簡単な方法としては  
一、微温湯三升位にサク酸二三滴を入れその液中浸し  
二、水す／＼を十分に流して  
三、布の兩端を縫い合せて兩端に棒を通し引張つて干す

# 製板組合を 平町に組織

平署管内に於ける製板工場組合を今回新に組織する事となり發起者はそれ／＼組合員を勧誘中であるが、組合創立の趣旨は新に公布された工場法に基礎を置き雇傭者の優遇、改善及び同業同志の親睦をはかる等である最早規約の草案も出来、組合加入者も略決定したので近く創立發會式を舉げ役員選舉を行ふ由

# 記者毆打事件 罰金刑言渡

常警露商組合を侮辱せる記事に憤慨し村上福島毎日新聞記者を毆打した事件は本日平區裁判所に於て被告高倉精一は四十圓、若松清は廿圓に夫々白井監督判事から罰金の言渡あつたが事件の起りは無暴な新聞記事か

# 今秋の流行 イタクネ へ物柄りよ地生

洋服は今日の日本では既に平常の仕事着となつてしまつた

# 背廣服 が全盛であ

ります、そして洋服は又附屬品で引立つたものです、附屬品の中でも取分けネクタイは婦人の半襟と同様容貌や風采を整へる上に最も大切な役目を持つて居ります

# 色合や 模様なども

り精巧な小柄ものよりあつ